

# 刑法総論講義案(四訂版)



監修	:	裁判所職員総合研修所
定価	:	本体 3,612 円+税
判型	:	A5 判
ページ数	:	514 ページ(本文 469 ページ)
ISBN	:	978-4-906929-51-1
発行	:	平成 28 年 6 月

## 内容

本書は、裁判所職員総合研修所で裁判所書記官や家庭裁判所調査官となる実務家を養成するための基本法律教材として、使用されています。判例・実務の基本的動向を理解することに重点を置き、多くの判例を取り上げて分かりやすく解説されています。平成19年の三訂補訂版以降、9年ぶりとなる平成28年の改訂では、平成28年6月に施行された刑法等の一部を改正する法律等による刑の一部執行猶予制度に対応するよう加筆修正が行われ、また近時の学説の展開を踏まえつつ、新たな判例が補充される等、大幅な加筆修正が行われています。

これから刑法を学ぼうとされる方から、刑事実務に携わる方まで、幅広く活用いただける一冊です。

## 目次(抄)

第1編 刑法の基礎原理	第3章 違法性	第7章 罪 数
第1 犯罪と刑罰の基本観念	第1 適法性の実質とその判断	第1 犯罪の成立と個数
第2 罪刑法定主義	第2 正当行為	第2 犯罪の競合
第3 刑法の適用範囲	第3 正当防衛	第3編 刑 罰
第2編 犯 罪	第4 緊急避難	第1章 刑罰の意義と種類
第1章 犯罪の概念	第5 自救行為	第1 刑罰の意義
第1 犯罪の概念と犯罪の成立要件	第4章 責 任	第2 刑罰の種類とその内容
第2 犯罪概念の基底としての「行為」	第1 責任の本質とその判断	第2章 刑罰の適用
第2章 構成要件	第2 責任能力	第1 刑罰の適用過程
第1 構成要件の機能と構成要件要素	第3 原因において自由な行為	第2 構成要件及び法定刑を示す規定の適用
第2 実行為 I (総説)	第4 違法性の意識と法律の錯誤	第3 処断刑の形成
第3 実行為 II (不作為犯)	第5 期待可能性	第4 宣告刑の決定
第4 実行為 III (間接正犯)	第5章 未 遂	第3章 刑罰の執行
第5 因果関係	第1 未遂 I (総論)	第1 各種刑罰の執行
第6 構成要件の故意 I (総説)	第2 未遂 II (中止未遂)	第2 執行猶予
第7 構成要件の故意 II (事実の錯誤)	第3 不能犯	第3 刑の執行の減輕及び免除
第8 構成要件の過失 I (総説)	第6章 共 犯	第4章 刑罰権の消滅
第9 構成要件の過失 II (過失犯に関する実務的諸問題)	第1 共犯総説	
	第2 共同正犯	
	第3 共同正犯に関する諸問題	
	第4 加担犯	
	第5 共犯と身分	
	第6 共犯の錯誤	